ンス参加者に「ローカルな情報」を提供できる点で重要性が高いことが確認された。ガイダンスのより有効な実施体制について、今後も本協議会で活発に議論していきたい。もう1つは、各地域各現場での状況報告と意見交換である。9月開催時からの様々な変化も報告され、外国人児童生徒問題の多様化、複雑化が共有された。このほか、若林センター研究員から、だいじょうぶNet、多言語連絡帳、ガイダンス主催者交流会(1月23日開催予定)について報告があった。

「ガイダンス主催者交流会報告」(11頁)でも触れたが、県内各地域の関係者が定期的に話し合う本協議会は、全国的にみても本県に特有な非常に貴重な場となっている。本協議会から外国人児童生徒を応援するためのアイデアやメッセージを発していきたい。

「多言語による高校進学ガイダンス」
2度目のオンライン多言語による高校進学ガイダンス

多文化公共圏センターコーディネーター　鄭　安君

2021年度多言語による高校進学ガイダンスは対面3回およびオンライン1回と合計4回の開催を予定していた。しかし、新型コロナウィルスの「第5波」感染再拡大で、栃木県における緊急事態宣言が再発令され、下野新聞社主催の栃木県高等学校進学フェアが中止となった。それにジョイントする形で行う佐野市および宇都宮市での2回の対面ガイダンスも断念せざるを得なかった。結果、今年度の多言語による高校進学ガイダンスは本センターが主催する9月20日のオンラインガイダンスおよび10月2日の栃木市教育委員会と共催の形で行う対面ガイダンスの2回のみとなった。

2021年多言語による高校進学ガイダンスの開催予定と実施状況

	ガイダンス名称	開催団体等	日時・会場	参加者	対応言語（通訳）
1	栃木県高等学校進学フェア2021(多言語による高校進学ガイダンス)	下野新聞社主催への参加	9/12(日) 佐野市文化会館 (佐野会場)	– (緊急事態宣言の再発令で中止)	
2	オンライン多言語による高校進学ガイダンス	宇都宮大学国際学部附属多文化公共圏センター	9/20(月) オンライン開催 (ZOOM)	12家族と2名の教員 (見学)	ベトナム語、中国語、フィリピン語(タガログ)、スペイン語、ポルトガル語
3	栃木県高等学校進学フェア2021(多言語による高校進学ガイダンス)	下野新聞社主催への参加	9/23(木) マロニエプラザ (宇都宮会場)	– (緊急事態宣言の再発令で中止)	
4	令和3年　多言語による進学・学校生活ガイダンス	栃木市教育委員会と共催	10/2(土) キョウトウとちぎ蔵の街楽習館	6家族 (14名)	スペイン語、ウルドゥー語、ネパール語

本報告は本センターが主催する2度目となるオンラインガイダンス（9月20日）の取り組みと様子を中心にまとめるが、栃木市教育員会と共催した10月2日の対面ガイダンスについては、センターからHANDS事業関係者2名を説明担当として派遣した。また、真岡市教育委員会の協力依頼により、11月28日の「真岡市多言語による進学ガイダンス」にもシンハラ語を母語とするスリランカ人大学院生を通訳として派遣した。

オンラインガイダンスの開催に向けて、昨年は言語ごとにZOOMミーティングを準備したが、今年はすべての言語を1つのZOOMミーティングに集約した。ガイダンスは午前の部（10：00～13：00）と午後の部（14：00～17：00）の2回に分けて実施し、全体説明をしたあと、ブレイクアウトルーム機能を利用して各言語に分けて進行した。状況に応じて迅速に対応できるように、パソコンとZOOM機能に明るい学生を「技術担当者」として配置し、ガイダンス統括者の判断と指示に沿い、オンライン上に各ルームへの人員移動を行った。

1つのZOOMミーティングの集約使用したことで、ZOOMホストおよび共同ホストは遠隔でありながら必要に応じて、各言語のルームに入ることができ、全体の様子を伺うことができた。遅れて参加した家族への対応もしやすくなっていた。そして、説明担当者と通訳担当者が異なるルームに臨機応変に移動して相談に対応することができた。

今年度のガイダンスで強く感じたことは3つある。1つ目は、参加者が昨年よりもスムーズにオンライン参加ができていることである。申し込んだ13家族のうち、急用で不参加となった1家族を除いで、12家族は予定通りに参加した。2つ目は、生徒と保護者が揃ってカメラの前に出るケースが増え、親子で高校進学について話し合いながら、質問していたことが多かったことである。3つ目は、学校の先生も見学者としてオンラインガイダンスに参加したことである。

多言語による高校進学ガイダンスは、言語のハンディキャップを持ちやすい保護者に高校進学の情報を提供し、親子が一緒に高校進学について話し合える機会を増やす願いも込めている。親子がともにガイダンスに参加して、話し合いながら質問することが増えることは、大変うれしいことである。そして、休日にも関わらず、学校の先生が自ら申し込んで参加されたことは、物理的な移動が必要のないオンライン開催ならでの参加しやすさがあるほか、外国ルーツの生徒たちに対する先生たちの高い関心と熱意に心が打たれる。

「HANDS」は、様々な立場の関係者が手と手を取り合って、ともに歩んでいくとの意味合いを込めたネーミングである。生徒・保護者・先生の三者がともにガイダンスに参加したことで、HANDS事業が描いている将来が一層近づいてきたと感じる。コロナ禍はしばらく続く可能性が高いなか、2度のオンライン開催で得た経験を活かし、来年はより良い形で対面とオンラインの両方の開催を目指したい。

9月20日オンライン多言語による
高校進学ガイダンス開催前の準備風景